

子どもの本だな 41

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

ねぼすけ はとどけい

ルイス・スロボドキン 作
くりやがわ けいこ 訳 (偕成社)

スイスの山奥にある村の時計屋はハト時計でいっぱいです。1時間ごとに、ハトは一斉にポッポーと鳴きますが、1羽のハトだけはいつも遅れて鳴きました。村の子どもたちは学校の帰り道、時計屋の前で立ち止まり一斉に鳴くハトと遅れて鳴くハトを見るのを楽しみにしています。ある日、ゾウに乗った王様が村に来てハト時計を全部買いたいと言い、時計屋は大喜び。ところが3時ちょうどにハトが一斉に鳴いた後、1羽だけが遅れて鳴くのをみた王様は、それを直さなければ買うのをやめると言い出します。時計屋はあちこち修理しますが直りません。最後に子どもたちの考えたとおり、ハトが眠り込んでしまい遅れるとわかりました。

やわらかい線と黄色を基調とした淡い色の暖かい絵はユーモアたっぷり、思いがけない結末は大きな満足を与えてくれます。読んでもらえば5歳くらいから楽しめます。(西村)

すえっこ^{オー}ちゃん

エディス・ウンネルスタッド 作 石井 桃子 訳
ルイス・スロボドキン 画 (福音館書店)

Oちゃんは5歳。7人きょうだいの末っ子です。ある日、屋根裏部屋で古い乳母車を見つけたOちゃんは、黒ねこのクロに産着とレースつきの帽子を着せ、乳母車に寝かせると、散歩に出かけました。もがくクロをなだめながら下り坂にさしかかったとき、大きな犬が乳母車に飛びついてきました。驚いたOちゃんは車から手を離してしまい、乳母車は坂を転げ落ちていきます。誰もが息をのむなか、乳母車は交差点で横からきたトラックと衝突しました。乳母車から投げ出されたクロが犬に襲われそうになったとき、Oちゃんは犬に体当たりをし、げんこつでぶちました。

Oちゃんの赤ちゃんごっこが起こした騒動を描いた「Oちゃん、あかんぼうをほしがる」のほか、1人で留守番をしていたOちゃんが電話をかけたことで、2匹の子犬をもらう話など、のびのびとしたOちゃんの日常を描いた8編が楽しめます。読んでもらえば5歳から。(竹内)

3月	4月	3・4月の移動図書館(いずれも木曜日です)				
9日	6日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
16日	13日		岩見構上 公会堂 11:00~11:20	原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
23日	20日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		吉福 公民館 15:30~15:50	太子 ニュータウン 公民館 16:00~16:30

**やさしい考古学講座
「縄文の人々の暮らし」**

「東南遺跡」をはじめ県内の代表的な遺跡発掘の成果をもとに、この地域に生きた縄文人の生活をお話いただきます。
講師：深井明比古さん
(兵庫県立考古博物館)

日時：3月25日(土)
13:30~15:30
会場：あすかホール
ミニシアター

対象：小学生以上大人まで
(60名)

※申込みが必要です。

『フンボルトの冒険 自然という<生命の綱>の発見』

アンドレア・ウルフ 著 鍛原 多恵子 訳

NHK出版 493,6頁 2017年1月刊 2,900円 (請求記号) Bフン

本書は、フンボルトペンギン、フンボルト海流等の名称の由来である科学者フンボルトの伝記。

1769年、プロイセンの貴族に生まれたフンボルトは、幼少期から植物に興味を持ち、熱帯地方や冒険を夢見ていた。厳格な母の希望に沿った学業を終えると、鉱山官になり岩石や植物などあらゆるものを調査、測定、記録、分類していた。しかし、母が亡くなると遠国への憧れを押さえず、スペイン国王から南米調査の許可を得て、望遠鏡や顕微鏡、羅針盤、気圧計等最新の測定機器類とともに帆船に乗り込んだ。目的は、自然のあらゆる力がどう関連し絡み合っているかを知ることであった。ベネズエラ上陸後、一行は大草原を渡り、オリノコ川を小舟で遡上、熱帯雨林に入り込んだ。続いて、アンデス山脈をラバで越え、地球創成を理解する鍵と、いくつもの火山の噴火口をのぞき込んだ。当時世界一の高峰とされていた火山の登頂を直下のクレバスに阻まれて断念。山腹と遠くの間脈を見おろしたとき、フンボルトは、ヨーロッパで観察してきた多様な植物や岩石の層、測定値との比較によって、これまで目にしたものすべてがあるべき位置に収まり、自然は「命の綱」(ウェブ・オブ・ライフ)であるという大胆な自然観に到達した。

フンボルトは南米で先住民と出会い、森林伐採によって環境破壊をもたらす植民地主義と奴隷制度に反対するようになった。等温線を考案し、後年は科学者を組織して地球規模でデータの共有を図り、自身の困窮にも関わらず若手科学者の支援を惜しまなかった。詩と科学が融合した彼の著作はダーウインやソローに大きな影響を与え、生態系や環境保護といった現代の私たちの自然観の一部をなしている。

(片木)

3月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

4月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

カレンダーの×印は休館日。
□は館内整理日。返却のみ受けつけます (10:00~17:00)

開館は10時~18時。金曜日は20時まで開館。

お知らせ

毎週土曜日に

「おはなしの時間」

を開いています。

4歳~2年生 11:00~

3年生~中3 11:30~

3月のおはなしは、

「花さかじい」「英雄ヘラクレス」

「メアリー・ポピンズ」などを予定しています。

詳しくはプログラムをご覧ください。

地下水

ここ何か月か、四十肩に悩まされている。腕が上がらないほどひどくはないので、時々「いたっ」とつぶやきながら、なんとか普通に過ごしている。ところが先日、重いものを持ち上げようとして、腰にギクツときた。座っていればなんとか過ごせるのだが、当日はカウンターにも立てず、本も持たず、周りに迷惑をかけている状態だった。これも老化のひとつかと悲しくなった。

バレリーナの吉田都さんの著書『踊り続ける理由』(河出書房新社)に、四十歳を過ぎた頃、それまでできていたことができなくなってきた、体の衰えはどうしても避けられない。だが、自分の変化を受け入れ、コントロールできるのがプロ、と書かれていたのが印象的だった。「人間としても成熟していかなければなりません:変化を受け入れて進化する。あらゆる場面において、大切ですね」とも。

子どもを見ていると、日々変化と進化の連続だ。仕事もしかり。一見マイナスのようにみえる変化を、いかにプラスの進化に変えるかが鍵だと思う。三月、日差しは日ごとに春めいてきた。四月から大きな変化が待っている人たちも多いだろう。「変化を受け入れて進化する」。新年度のキーワードにしよう。

(池田)

